プレスリリース

報道関係者各位

2026年5月28日 配信　No.2026-12
立命館アジア太平洋大学（APU）

立命館アジア太平洋大学・石川県が連携協定を締結
世界農業遺産を通じた人材育成と能登の関係人口を創出へ

立命館アジア太平洋大学（大分県別府市、学長：米山裕、以下「APU」）と石川県（金沢市、知事：山野之義）は、2026年5月28日（木）、「石川県と立命館アジア太平洋大学との世界農業遺産を通じた国際貢献に関する連携協定」を締結しました。

本協定を契機に、APUの国際性と教育研究機能と、石川県が有する世界農業遺産「能登の里山里海」における取組を掛け合わせ、地域課題解決に貢献できる人材の育成を推進します。同時に、交流の創出を通じて、能登の関係人口の拡大を目指します。なお、本協定は、APUにとって大分県以外の都道府県との初めての連携協定となります。

【協定の背景と目的】

APUは、多文化共生環境のもとで国際教育・研究を推進し、大分県を中心に国内外のフィールドスタディを積極的に行うことで、地域課題解決に貢献できる人材育成に取り組んできました。

石川県は、平成23年の世界農業遺産「能登の里山里海」の認定以降、海外における認定や地域活性化に貢献するため、海外から留学生等を受け入れ、能登の地域振興について学ぶ研修を実施してきました。

両者が連携することで、APU学生は観光や災害復興をはじめとする地域振興を実地で学び、地域課題に実践的に取り組める人材としての成長が期待されます。また、能登の課題に対するAPUからの提言や交流の促進を通じて、地域の発展への貢献を目指します。このような双方の取組の親和性を背景に、本協定の締結に至りました。

【お問合せ・取材お申込み】全学企画オフィス　広報・ブランディングチーム　担当：井口（いのくち）
〒874-8577 大分県別府市十文字原1－1 Tel: 0977-78-1114　携帯：090-5473-3803　Email：r-apu@apu.ac.jp

【連携協力事項および取り組み例】

1．石川県はAPUに対し、能登の里山里海における実地調査や就業体験、課題解決に向けた関係者との意見交換などの研修の場を提供し、人材育成を支援するとともに、APUに能登の里山里海との交流促進に関する情報を提供する。
2．APUは、石川県が実施する研修等の活動に積極的に参加、協力し、学術的及びグローバルな視点から、能登の課題に対する提言を行うとともに、石川県から提供された能登の里山里海に関する情報を学内で周知し、交流を促進する。
3．その他両者が協議して必要と認める事項に関することについて、相互に連携・協力する。

＜今年度に実施予定の取り組み＞
・フィールドスタディ「能登の里山里海：世界農業遺産から考える地域復興と持続可能性」を実施（8月）
・能登の里山里海に関する情報のAPU学内での広報

【代表者コメント】

■ 立命館アジア太平洋大学 学長 米山裕

APUは、能登半島地震や豪雨災害以前から、サステイナビリティ観光学部の教員を中心に、石川県と世界農業遺産を軸とした草の根の連携を重ねてきました。災害による一時的中断を乗り越えて本協定の締結に至ったことは、大変意義深いものと感じています。今年度から石川県におけるフィールドスタディを正課の科目として実施できるようになりました。留学生を含む多様な学生が、石川県の現場での課題解決型学習を通じ、地域の復興や持続可能な発展に主体的に関わります。彼らが、国際社会に貢献できる人材へと成長するとともに、その力が能登地域の復興と持続可能な地域づくりに寄与することを願ってやみません。

■ 石川県知事 山野之義

この度、立命館アジア太平洋大学と世界農業遺産を通じた国際貢献に関する連携協定を締結できましたことを大変喜ばしく思います。本県では、平成２３年に「能登の里山里海」が先進国で初めて世界農業遺産に認定されたことを契機として、能登に海外からの研修生を積極的に受け入れ、国際貢献に取り組んできました。本協定では、APUの学生を対象に、「能登の里山里海」における復興をはじめとする地域振興の取組について体験学習する機会を提供することにより、自国の地域課題解決に貢献できる人材を育成することとしております。今回の連携が、能登の関係人口の創出につながることを期待するとともに、今後ともAPUと本県との関係がより発展的に継続していくことを願っております。

【お問合せ・取材お申込み】全学企画オフィス　広報・ブランディングチーム　担当：井口（いのくち）
〒874-8577 大分県別府市十文字原1－1 Tel: 0977-78-1114　携帯：090-5473-3803　Email：r-apu@apu.ac.jp